

令和6年度 横浜旭陵高等学校 第1回学校運営協議会 議事録

- 1 日 時 令和6年5月25日(土)10:00～12:00
- 2 場 所 県立横浜旭陵高等学校 B棟1F 多目的室
- 3 出席者 学校運営協議会委員:4名 (佐久間様、久保様、大和田様、川崎様)
学校関係者:11名(管理職・総括教諭他)

4 内 容

(1)校長挨拶

昨年度の取り組みについては、いずれの項目も概ね達成できています。

来年度以降は、閉校に向けて生徒数に応じて教員数の規模が縮減していく中、これまでと同様の教育活動を維持していく必要があります。

今年度は従来の取組に加え、生徒の不登校防止を念頭に1年間の目標設定を設定しました。

(2)各グループからの報告

研究開発G

持丸総括教諭

個別最適な学びと自己肯定感を高めることを目指して授業改善に取り組みます。

今年度の授業改善は、ICT利活用によるものと多様な認知特性を考慮する等によるものの1つがテーマです。今年度は、2回の授業評価アンケートによる振り返りを実施します。また、夏以降、教職員研修を実施してその実現を図っていきます。

学事情報G

大久保総括教諭

教育課程の編成と成績処理を担当しています。

今後の課題としては、単位制の仕組みの維持ということになります。教員が減少していく中で、開講できる授業数の減少が見込まれます。一方で、生徒の卒業のために必要な授業数を維持しなければなりません。どう工夫していくのかを考える必要があると感じています。

進路支援G

千葉総括教諭

この春卒業した生徒の進路状況は資料のとおりです。今年度卒業年次生は専門学校志望者が例年よりも多くなっています。専門学校は6月1日よりエントリーが始まりますので、既に指導をスタートさせています。就職希望者は例年より少なめですが、引き続き丁寧に支援をしております。

1、2年次生には、キャリアカウンセリングを行っており、生徒の進路希望に合わせた来年度の授業選択を考えているところです。

自主活動G

伊藤総括教諭

一番大きなものは生徒会活動です。一年次から卒業年次まで揃って参加できる最後の年なのでサポートしていきます。

文化祭については実施の形など検討しながら勧めています。

もう一つ、自主活動グループの仕事として、生徒のボランティア活動があります。説明会を通して、参加する生徒を増やしていきたいです。

図書館に関しましては、学校司書の努力により大変に活性化しております。保健室ライブラリー、職員室への出張図書館、ブックサロンなど教育活動を大きく支えております。閉校に向けて様々な変容は予想されますが、高校生としての活動が担保されるように支援してまいります。

総務管理G

吉田総括教諭

今までは広報活動が主な仕事でしたが、新入生は今年度の1年生が最後となりました。今後は、閉校に向けた物品管理が必要です。また、在校生のための環境整備も並行して行っています。広報活動についても、学校の取り組みをPRしていくところは続けていきたいと思っております。さらに会計等の取り扱いについても、事故防止を掲げて慎重に取り組んでいきたいと思っております。

生徒成長支援G

山森総括教諭(原稿代読長谷川教頭)

生徒指導と教育相談を担当しております。新入生は元気で挨拶もよくできるのですが、元気過ぎる面もあり、引き続きルールやマナーを遵守できるよう支援していきます。教育相談については、生徒や保護者の受け入れ体制は充実しており、今後も継続していきます。

(3) <協議>『学校目標』および今年度の本校に期待する取組について

佐久間委員

閉校を考えながらの教育活動の大変さを推察します。特にICT利活用、認知行動療法を用いた実践、地域に根ざした学校づくりは、大変有効な取組だと以前から実感しています。教員数が減少する中でも、生徒の教育活動の担保はしていただきたいと思っております。閉校までの期間には限りがあるかと思っております。卒業していった生徒が学校の補助を求めた場合には、どう対応していくのか聞きたいと思っております。

大野校長

旭高校との再編統合ですので、これは新校が対応いたします。卒業生が困らないことがいちばん大切なことですので、そのように対応してまいります。

久保委員

閉校に向けて生徒様や先生の数が増減していくのは存じ上げておりますが、生徒さんのモチベーションが下がらないか気になります。

旭陵高校には、単位制という仕組みをはじめ特有の取り組みがあると思っております。このような特徴が統合後にどうなっていくのかが気になりました。

大野校長

再編統合相手の旭高校は単位制ではなく、高校として最も一般的なタイプの学校です。新校は学年制という旭高校のスタイルを継承します。本校の特色がどのように生かされるかに関してはこれから議論が本格化するところです。ご意見賜りたく存じます。

大和田委員

生徒が明るく楽しそうに通学しているのをよく見るので、閉校していくのが信じられないといったところ。新型コロナウイルス感染症が落ち着いてきたところで、ボランティアが本格化しています。生徒の受け入れも積極的に行いたいので、学校と協力していきたいです。また、認知行動療法の取り組みは県下に広がりを見せているのか、お尋ねしたいです。

大野校長

昨年度は全県立高校、特別支援学校に対して授業公開の案内を出し、60～70名の参加がありました。旭高校との統合で本校の取り組みが引き継がれるかどうかは現時点で不明ですが、本校で体験した教職員が異動先で実践することで県下に広がることを期待しています。今のところは、他校に広がっていませんが、これで終わりとも思っていないので、お声掛けいただければお応えしますというスタンスです。

伊藤総括教諭

ボランティアについてお手伝いできるならば、掲示できるものは掲示させていただきます。

大久保総括教諭

本校では、ボランティアの単位認定も行っています。継続的な取り組みが認められれば認定しています。

大和田委員

ボランティアをお願いする場合、どのくらい前をお願いすればよいのでしょうか。

大久保総括教諭

随時で大丈夫です。

川崎委員

旭陵高校に娘がいます。入学以降、娘の変化が大きいです。人と関わるのが得意ではなかったのに友だちと楽しそうにして、アルバイトも始めました。横浜旭陵高校が閉校になることを寂しく思います。

副校長

次回および3回目の日程ご案内
閉会の辞